

僅かに持ち合わせた電子工学の知識のリフレッシュをと、大学の門を叩いたのがコンピュータとの出会いでした。「数学科からの転身は当にうってつけ」といわれるまま、まだコンピュータの奔りもない研究室で論理代数、論理回路、計数回路、デコーダなど、コンピュータの基礎回路と取り組んだ昭和四十年のことでした。

現場に戻って早速の仕事は教材の開発。コアメモリ、水銀遅延回路、パラメトロン、IC等々様々な素材が次々と出現する中で、この世界の不易と流行を見極めながら教材を組み立てる忙しくも楽しい学習の時間がありました。

中古の電子計算機をもらいました。本体、主記憶装置、電動タイプライター、紙テープ穿孔機などで小さな実習室を占拠する程のシステムでした。機械語と呼ばれる数字を羅列してプログラムを作ります。平方根が打ち出されたときの感動！成績一覧表を打ち出すコンピュータに同僚の耳目を集めた感激！遠い昔の忘れ得ない思い出です。

コンピュータはものすごい勢いで進化し、私も遅れじと新しい知識を貪り求めました。

定年を迎え、請われて再度教える側に立ちました。手元のコンピュータの可能性の追及を課題にしていた私は、システム設計、プログラム設計、プログラミング手法の領域で講師を引き受けました。

コンピュータは更に進化し、素晴らしい基本ソフトが出現しました。どのコンピュータのために作られたソフトウェアでもこのソフトの下に取り込めるようになったのです。世界中の技術者が蘊蓄を傾けたソフトが私たちのパソコンに詰め込まれました。画面に並んだドアの一つを叩くだけで目的のサービスを引出すことができるのです。この時点で私の講座の存在理由が失せました。

只今の私はコンピュータの利用価値、可能性を仲間に分れまわり、インターネットに広がる世界への誘いなどが役所かなと思っています。



生涯学習通信 生涯学習推進会議

のびのび いきいき 生涯学習

『わたしの生涯学習』



【人生80年を楽しくする生涯学習】

今ではもう生涯学習という言葉は多くの人達にご理解頂けるようになったと思います。人が学校を卒業した後も、いろいろな場所で様々な形で、いつまでも自分が必要だと思いうことを学ぶ時代に入ったのです。なぜでしょうか。

その一つは、「社会の激変化」が原因です。最近では職場の女性進出が常態化してきましたが、その職業が日進月歩で激しく変化します。職業人はすべて新しいことを学ばないと仕事ができない時代になりました。

ブティックを経営している女性の会合に出席しましたが、そこでも話題はもっぱら「生涯学習の必要性」でした。新しいデザインの洋服がどんどん入荷し、それについての知識がないと消費者から相手にしてもらえないとか、若い従業員の教育ができないと、すぐに辞められてしまうとか、もう話はずきない状態でした。

その二つめは、「高齢社会の出現」です。高齢化は私たち全員の課題であることはいうまでもありません。まず第一に高齢者をもっと大切にするために、私たちに生涯学習が必要となってきました。今後避けられない高齢者介護活動に必要な学習課題です。家庭や地域における高齢者介護活動を私たち皆が担う必要性があるのです。

一方また、生涯学習が高齢者の社会活動を盛んにする原因にもなっています。永年学んできたこと、体験してきたことを使って、お母さん方を対象に郷土料理を教えたり、土曜日や休日に近所の子どもに花作りなどを指導したりする高齢者の増加です。

その三つめは、生涯学習は「豊かな心」づくりに絶大な効力を発揮します。学校の週五日制は子ども達の学校外活動をも公認する新しい制度です。学校内だけでなく家庭や地域・自然の中で自分の好きなことを体験させるという「子どもの生涯学習を制度化したものにほかなりません。例えば、自然の中で小鳥と出会ったことのある子どもさんは、小鳥を見ると「可愛い」とか「カッコいい」とか、「あの鳥の鳴き声はこうなんだよ」といいます。その子の心は豊かです。しかし受験勉強ばかりさせられていた子どもさんは、小鳥とのふれあい体験がありませんから、小鳥を見ても何の感情も出てこないのです。

岡本包治著「生涯学習活動の支援」より抜粋